



2020年1月31日

会社名 **株式会社アールシーコア**
 (コード番号 7837) (<http://www.rccore.co.jp/>)
 代表者名 代表取締役社長 二木 浩三
 問合せ先 経理部責任者 壽松木 康晴
 電話番号 03-5790-6500

(訂正・数値データ訂正)「2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の
 一部訂正について

当社が2019年7月30日に公表いたしました「2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に一部誤りがありましたので、下記の通りお知らせいたします。

また、数値データにも訂正がありましたので、訂正後の数値データも送信いたします。

記

1. 訂正内容と理由

当社グループの連結決算処理の過程で、内部取引利益として消去すべき未実現利益の一部が集計処理から漏れたことにより、売上原価が過小計上かつたな卸資産が過大計上となっていることが判明しましたので、これを訂正いたします。この誤謬は、第3四半期決算手続きの中で、社内予算と実績値の乖離原因の究明が端緒となり、前年度からの子会社の大幅な業容拡大により複雑化していた連結決算処理を再点検した結果、発見されたものであります。

なお、過年度業績への影響及び過年度決算短信等の訂正はありません。

2. 訂正箇所

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後の全文を添付し、訂正箇所には下線を付して表示しております。また、連結業績に与える影響額の概要は下記の通りであります。

2020年3月期 第1四半期連結累計期間 (単位：百万円)

	訂正前	訂正後	差額
売上高	3,018	3,018	—
営業利益	△411	<u>△481</u>	△70
経常利益	△424	<u>△494</u>	△70
親会社株主に帰属する四半期純利益	△388	<u>△437</u>	△48

3. 四半期報告書の訂正について

該当期の四半期報告書の訂正報告書につきましては、監査法人によるレビュー手続きが終了次第、速やかに提出する予定であります。

以上



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アールシーコア
 コード番号 7837 URL <http://www.rccore.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 二木 浩三
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部責任者 (氏名) 壽松木 康晴 TEL 03-5790-6500
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	3,018	14.6	<u>△481</u>	—	<u>△494</u>	—	<u>△437</u>	—
2019年3月期第1四半期	2,632	△8.0	△368	—	△386	—	△285	—

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △444 百万円 (—%) 2019年3月期第1四半期 △275 百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	<u>△103.80</u>	—
2019年3月期第1四半期	△67.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	<u>11,881</u>	<u>3,230</u>	<u>27.2</u>	<u>766.82</u>
2019年3月期	11,833	3,794	32.1	900.81

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 3,230 百万円 2019年3月期 3,794 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	25.00	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,000	53.3	330	—	280	—	200	—	47.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年3月期1Q	4,508,700 株	2019年3月期	4,508,700 株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2020年3月期1Q	296,520 株	2019年3月期	296,520 株
------------	-----------	----------	-----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年3月期1Q	4,212,180 株	2019年3月期1Q	4,205,243 株
------------	-------------	------------	-------------

（注）期末自己株式数には、株式給付信託口及び役員株式給付信託口が保有する当社株式（2020年3月期1Q 296,338株）が含まれております。また、株式給付信託口及び役員株式給付信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2020年3月期1Q 296,338株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9
3. 補足情報	10
生産・受注及び販売の実績	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用及び所得環境の改善傾向のもと、緩やかな回復基調が続きました。一方で、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性には留意する必要がある状況です。

住宅市場においては、2019年4月～2019年5月の新設住宅着工数は前年同期比7.2%減（5月の季節調整済年率換算値90.0万戸）となるなか、木造持家に係る新設着工数は同8.7%増で推移しています。

このような状況において、当社は中期3ヵ年計画の最終年度を迎え、「“業界最狂、ハピネス拡散”」のローガンのもとBESSブランドの更なる成長に向け、邁進しております。

当社は、BESS事業をスタートさせて以来、ユーザー視点に立脚した経営に取り組み、住宅業界の常識に挑戦してきました。このような業界の「異端」とも言える姿勢を更に進化させる意味で、“最狂”を掲げています。“最狂”には、当社が理想とする「“狂”狷の道」（注）を進んでいくことで、多くの熱“狂”的とも言えるほどのBESSファンとともに大きく成長していきたいという思いを込めています。

（注）狂狷（きょうけん）：孔子の「論語」に由来し、狂者は進取の精神に富むいわば理想主義者、狷者は「できることでもやらないことがある」という強い信念の持ち主を意味し、当社では、理想を追い続け、意志を曲げないことを指しています。

<営業活動の状況>

A) 「商品面」の取り組み

- ・外の楽しさを家の中に自由に持ちこめる土間を、今回コンセプトを新たに木で仕上げ木土間として備えたカントリーログのキャンペーンモデル「カスキュー」を2019年6月までの期間限定で販売しました。
- ・「小さく建てて、大きく暮らす」コンセプトのもと、外を暮らしの中心と考え、家、ウッドデッキ、更にログキャビン（IMAGO）を加え、既成概念を超えた暮らしを提案する「ワンダーデバイス・ギャング」を発売しました。LOGWAYクラブ会員限定の特別モデルとして2019年12月末までの期間限定の特別価格で提供します。

B) 「営業面」の取り組み

- ・2018年4月より、展示場の呼称を改めLOGWAYとし、BESSならではの取り組みを進めています。LOGWAYでは、BESSの家に実際に住まれる方々が、LOGWAYコーチャーターとしてBESSの暮らしを検討する方に、生の声を伝えます。LOGWAYコーチャーター登録数は、2019年6月末現在600組となり、全国のLOGWAYで活躍されています。
- ・BESSの暮らしを検討する方を応援する制度として、2018年10月よりLOGWAYクラブを立ち上げました。会員向けの特別モデルの販売をはじめ、様々な会員特典を用意しています。

C) 「生産面」の取り組み

- ・施工、物流、設計、情報、購買の5つのテーマを掲げて生産面を大幅に変革する「生産革新」に取り組んできました。供給部材の取扱いを拡充し、従来のキットという呼称から部材パッケージと改め、特に施工・物流面では「ログハウス施工現場の負担軽減」を実現してきました。更に、今後の受注拡大に向けて、提携工場の拡充等による生産性及び物流効率の向上に取り組んでいます。

<業績先行指標の状況>

- ・全国BESS LOGWAY（展示場）への集客面では、前年度はBESS多摩のオープンで来場が急増したこと等があり、新規来場者数が前年同期比7.8%減、再来場者数は同1.8%減となりました。
- ・LOGWAY展開については、2019年4月にBESS山形及びBESS大分が営業終了となり、稼働拠点数は43拠点となっております。
- ・営業体制は、BESS事業全体（販社含む）の専任営業員数（BESS専任の営業として在籍する営業員数）は165名と前期末より3名減となりました。

<その他の取り組み>

- ・ B P社において、拠点経営の自立化を促す目的で2019年4月に会社分割を行い、同社の札幌営業所及び岐阜営業所を、株式会社B E S S札幌及び株式会社B E S S岐阜にそれぞれ継承しました。両社については、その重要性に鑑み、いずれも当第1四半期連結累計期間から当社の連結子会社としました。
- ・ コーポレートガバナンスに関する取り組みとして、独立社外取締役を主要な構成員とする報酬諮問委員会を取締役会の決議により設置し、役員報酬に係る取締役会の機能の独立性、客観性及び説明責任を強化することとしました。

(連結業績の概要)

当第1四半期連結累計期間における連結売上高は、前年度にオープンしたB E S S多摩において当期より売上に寄与し始めたこともあり、前年同期比14.6%増の3,018百万円となりました。

しかしながら、工期の長期化等による売上進捗の遅れと、前年度に経営難に陥った販社から、B P社が承継した6拠点の運営に係る先行費用負担などにより、利益面においては、連結営業損失481百万円（前年同期は368百万円の損失）となり、連結経常損失が494百万円（同386百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失が437百万円（同285百万円の損失）となりました。なお、承継した拠点の契約（受注）獲得は順調に推移しており、当連結会計年度下期以降に連結売上に貢献する見込みです。

連結契約（受注）高においては、2,701百万円（前年同期比0.4%増）、期末契約（受注）残高は13,878百万円となりました。

(報告セグメントの業績概要)

当社グループの単一事業であるB E S S事業は、暮らしのブランド『B E S S』のもと、“「住む」より「楽しむ」”をスローガンに、個性的で楽しい暮らし方のデザインにまで踏み込んで開発した企画型住宅（＝ログハウス等の自然派個性住宅）の提供を行っております。住宅引渡時点での顧客満足以上に、暮らしをスタートさせた後の顧客の「“ユーザー・ハピネス”の実現」を使命としています。

その業績概要については、以下の3つの報告セグメントに区分されます。

①直販部門

連結売上高の32.4%（外部顧客売上高ベース）を占める直販部門は、東京都・代官山の「B E S Sスクエア」、東京都・昭島の「B E S S多摩」及び神奈川県「B E S S藤沢」の直営3拠点で、東京・神奈川圏を中心とする顧客との直接の工事元請契約によるB E S S企画型住宅等の提供を主要事業としております。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は、2018年4月にオープンしたB E S S多摩の契約（受注）が売上に結実し始めたこと等から977百万円（前年同期比27.8%増）となりました。また、セグメント利益は4百万円（前年同期は83百万円の損失）となりました。

一方、セグメント契約（受注）高は、883百万円（前年同期比15.3%減）となりました。

②販社部門

連結売上高の51.4%を占める販社部門は、全国の地区販社に対して、B E S Sブランドと販売システム等を提供するとともに、B E S S企画型住宅の部材パッケージ等を供給する事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は、1,787百万円（前年同期比13.5%増）となり、セグメント利益は83百万円（同16.8%増）となりました。前年度より改善はしておりますが、今後は一層の工期短縮に努め、更なる売上回転力の向上を目指します。

また、セグメント契約（受注）高は、B P社拠点の増加に伴いセグメント間取引の割合が増加したことなどから、1,035百万円（同12.0%減）となりました。

③株式会社BESSパートナーズ（以下、BP社）

連結売上高の16.2%を占める国内連結子会社のBP社は、金沢（石川県）、熊谷（埼玉県）、水戸（茨城県）、つくば（茨城県）、富士（静岡県）、静岡中部（静岡県）、浜松（静岡県）、東愛知（愛知県）に加え、その連結子会社である株式会社BESS札幌が担う札幌（北海道）、同じく株式会社BESS岐阜が担う岐阜（岐阜県）の合計10拠点のBESS LOGWAYを営業拠点として、顧客との直接の工事元請契約によるBESS企画型住宅等の提供を主要事業としております。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は、499百万円（前年同期比11.8%増）となりましたが、承継拠点の費用発生等からセグメント損失は177百万円（前年同期は26百万円の損失）となりました。

セグメント契約（受注）高は、上記承継拠点による契約（受注）増加の影響等から782百万円（前年同期比65.5%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末比で48百万円増加の11,881百万円、負債は同612百万円増加の8,651百万円、純資産は同564百万円減少の3,230百万円となりました。それぞれの主な増減要因につきましては、次の通りであります。

総資産につきましては、契約（受注）残の工期進捗に伴い「商品」が前連結会計年度末比で357百万円、「未成工事支出金」が108百万円、それぞれ増加した一方、「売掛金及び完成工事未収入金」が同396百万円減少したこと等によります。

負債につきましては、「前受金及び未成工事受入金」が前連結会計年度末比で266百万円及びBP社における前年度の承継物件に伴う預り金を含む「その他」が同328百万円、それぞれ増加したこと等によります。

純資産につきましては、「親会社株主に帰属する四半期純損失」437万円の計上及び利益配当を112百万円実施したこと等によります。

その結果、自己資本比率は27.2%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、2019年5月13日に公表した数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,089,669	2,723,627
売掛金及び完成工事未収入金	1,691,121	1,295,026
商品	561,152	918,534
貯蔵品	73,621	80,337
販売用不動産	35,185	34,655
仕掛販売用不動産	201,900	278,829
未成工事支出金	66,893	174,925
その他	527,409	762,006
流動資産合計	6,246,954	6,267,943
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,167,796	3,167,796
その他	2,268,493	2,281,289
減価償却累計額	△1,143,194	△1,185,537
その他(純額)	1,125,299	1,095,752
有形固定資産合計	4,293,095	4,263,548
無形固定資産		
その他	196,939	198,128
無形固定資産合計	196,939	198,128
投資その他の資産		
その他	1,112,730	1,168,563
貸倒引当金	△16,279	△16,207
投資その他の資産合計	1,096,451	1,152,355
固定資産合計	5,586,486	5,614,032
資産合計	11,833,441	11,881,976

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金及び工事未払金	1,553,481	1,404,653
短期借入金	1,050,000	1,047,560
1年内返済予定の長期借入金	596,123	605,593
未払法人税等	779	668
前受金及び未成工事受入金	888,269	1,154,897
アフターサービス引当金	51,680	49,420
賞与引当金	19,441	127,507
ポイント引当金	137,164	148,529
その他	883,306	1,226,328
流動負債合計	5,180,244	5,765,160
固定負債		
長期借入金	2,070,242	2,089,155
長期末払金	167,191	167,191
退職給付に係る負債	78,384	79,279
長期アフターサービス引当金	46,566	50,482
株式給付引当金	22,205	23,789
役員株式給付引当金	41,707	48,982
資産除去債務	195,668	195,930
その他	236,850	232,000
固定負債合計	2,858,818	2,886,812
負債合計	8,039,063	8,651,972
純資産の部		
株主資本		
資本金	660,764	660,764
資本剰余金	719,305	719,305
利益剰余金	2,710,333	2,153,510
自己株式	△331,872	△331,872
株主資本合計	3,758,530	3,201,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48,690	43,778
繰延ヘッジ損益	△12,843	△15,482
その他の包括利益累計額合計	35,847	28,295
純資産合計	3,794,378	3,230,003
負債純資産合計	11,833,441	11,881,976

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	2,632,526	3,018,089
売上原価	1,890,034	2,290,888
売上総利益	742,492	727,200
販売費及び一般管理費	1,110,927	1,209,072
営業損失(△)	△368,435	△481,871
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,202	3,336
為替差益	740	—
販売協力金	3,798	1,556
その他	1,564	3,250
営業外収益合計	8,306	8,144
営業外費用		
支払利息	5,254	6,844
支払手数料	20,500	500
事業承継費用	—	12,963
その他	833	799
営業外費用合計	26,587	21,108
経常損失(△)	△386,717	△494,835
税金等調整前四半期純損失(△)	△386,717	△494,835
法人税等	△101,640	△57,625
四半期純損失(△)	△285,076	△437,209
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△285,076	△437,209

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△285,076	△437,209
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22,312	△4,912
繰延ヘッジ損益	△12,624	△2,639
その他の包括利益合計	9,687	△7,551
四半期包括利益	△275,388	△444,760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△275,388	△444,760

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I. 前第1四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計 算書計上額 (注) 2
	直販部門	販社部門	B P 社	計		
売上高						
外部顧客への売上高	763,934	1,421,826	446,765	2,632,526	—	2,632,526
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,271	153,166	—	154,438	△154,438	—
計	765,206	1,574,993	446,765	2,786,965	△154,438	2,632,526
セグメント利益又は損失 (△)	△83,208	71,755	△26,149	△37,602	△330,833	△368,435

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引の消去△4,863千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△325,969千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II. 当第1四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計 算書計上額 (注) 2
	直販部門	販社部門	B P 社	計		
売上高						
外部顧客への売上高	977,133	1,553,016	487,938	3,018,089	—	3,018,089
セグメント間の内部売上高又は振替高	716	234,592	11,417	246,726	△246,726	—
計	977,850	1,787,609	499,356	3,264,816	△246,726	3,018,089
セグメント利益又は損失 (△)	4,834	83,800	△177,665	△89,029	△392,841	△481,871

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引の消去△40,483千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△352,357千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 B P 社は2019年4月1日付で会社分割を行い、札幌営業所を株式会社B E S S 札幌に、岐阜営業所を株式会社B E S S 岐阜にそれぞれ事業を承継しておりますが、両社共に報告セグメントのB P 社に含めております。

3. 補足情報

生産・受注及び販売の実績

① 生産実績

当社グループが営む事業では、生産実績を定義することが困難であるため、記載しておりません。

② 受注実績及び販売実績

前第1四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

セグメント 区分	品目名称	前連結会計 年度繰越高 (千円)	当第1四半 期連結累計 期間契約高 (千円)	計 (千円)	当第1四半 期連結累計 期間販売高 (千円)	次期繰越高		当第1四半 期連結累計 期間施工高 (千円)
						契約残高 (千円)	うち施工高 (千円)	
直販部門	ログハウス等部材パ ッケージ販売	58,831	4,139	62,970	18,578	44,391	—	—
	ログハウス等工事	3,487,311	1,035,900	4,523,211	701,603	3,821,608	112,556	783,338
	その他	448	2,876	3,325	43,752	—	—	—
	(小計)	3,546,591	1,042,916	4,589,507	763,934	3,865,999	112,556	783,338
販社部門	ログハウス等部材パ ッケージ販売	3,788,086	1,175,776	4,963,862	1,208,874	3,754,987	—	—
	その他	—	—	—	212,952	—	—	—
	(小計)	3,788,086	1,175,776	4,963,862	1,421,826	3,754,987	—	—
B P 社	ログハウス等部材パ ッケージ販売	—	875	875	875	—	—	—
	ログハウス等工事	1,596,761	471,854	2,068,615	445,654	1,622,961	18,836	440,846
	その他	—	—	—	235	—	—	—
	(小計)	1,596,761	472,729	2,069,490	446,765	1,622,961	18,836	440,846
合計		8,931,439	2,691,421	11,622,860	2,632,526	9,243,948	131,392	1,224,185

- (注) 1 前連結会計年度以前に契約したもので、契約の更改等により金額に変更のあるものについては、当期契約高に含めております。
- 2 次期繰越高のうち施工高については、未成工事支出金により手持工事の施工高を推定したものであります。
- 3 「ログハウス等工事」の施工高は（売上高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高）に一致しております。
- 4 各部門の「その他」（販促物販売収入等）は、契約高の繰越管理を行っておりませんので、「前期繰越高」「当期契約高」及び「次期繰越高」の欄の記載は行っておりません。

当第1四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）

セグメント 区分	品目名称	前連結会計 年度繰越高 (千円)	当第1四半 期連結累計 期間契約高 (千円)	計 (千円)	当第1四半 期連結累計 期間販売高 (千円)	次期繰越高		当第1四半 期連結累計 期間施工高 (千円)
						契約残高 (千円)	うち施工高 (千円)	
直販部門	ログハウス等部材パ ッケージ販売	24,604	10,693	35,297	10,706	24,591	—	—
	ログハウス等工事	5,317,516	869,097	6,186,614	923,914	5,262,699	210,646	1,061,525
	その他	—	4,041	4,041	42,513	—	—	—
	(小計)	5,342,120	883,832	6,225,953	977,133	5,287,291	210,646	1,061,525
販社部門	ログハウス等部材パ ッケージ販売	4,634,225	1,035,317	5,669,543	1,358,643	4,310,900	—	—
	その他	—	—	—	194,373	—	—	—
	(小計)	4,634,225	1,035,317	5,669,543	1,553,016	4,310,900	—	—
B P 社	ログハウス等部材パ ッケージ販売	—	2,226	2,226	2,226	—	—	—
	ログハウス等工事	3,984,642	780,246	4,764,889	485,002	4,279,886	29,726	496,855
	その他	—	—	—	709	—	—	—
	(小計)	3,984,642	782,473	4,767,115	487,938	4,279,886	29,726	496,855
合計	13,960,989	2,701,622	16,662,611	3,018,089	13,878,077	240,373	1,558,380	

- (注) 1 前連結会計年度以前に契約したもので、契約の更改等により金額に変更のあるものについては、当期契約高に含めております。
- 2 次期繰越高のうち施工高については、未成工事支出金により手持工事の施工高を推定したものであります。
- 3 「ログハウス等工事」の施工高は（売上高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高）に一致しております。
- 4 各部門の「その他」（販促物販売収入等）は、契約高の繰越管理を行っておりませんので、「前期繰越高」「当期契約高」及び「次期繰越高」の欄の記載は行っておりません。